

# 温

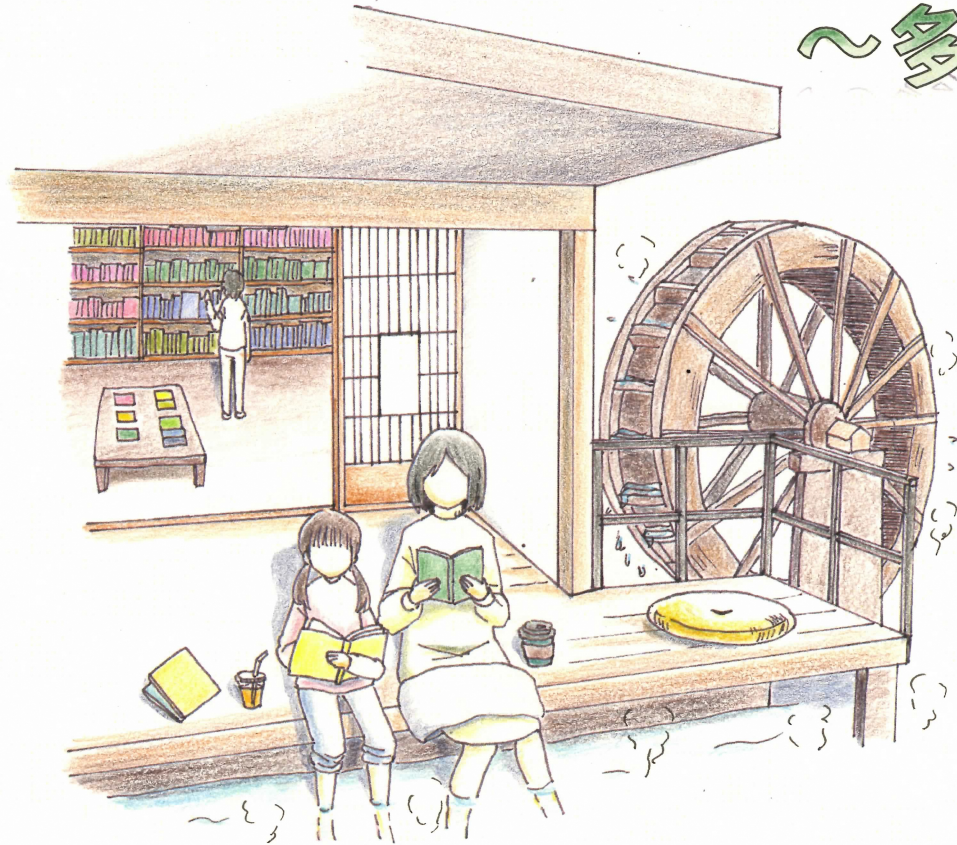
東静岡地区は、旧東海道の一部であり、人々の往来が活発に行われていた。そのため古民家を敷地内に移築し、静岡県の歴史的な文献や書籍を貯蔵し、広く県民にアピールできる空間を演出する。また、縁側の閲覧スペースには、周辺の施設から温泉を導き足湯を設け、リラックスしながら本を楽しむことができる。

# 温庫知深

# 知

IT化の技術が急速に発展する中、ドローンも身近な存在となっている。他の市町村図書館と連携し、ドローンで書籍を運搬することによって、各地域の専門的な書籍を閲覧することが可能となる。県民の生活に役立つ本や、専門的な資料を手軽に貸し出し、豊富な知識を得ることができる。

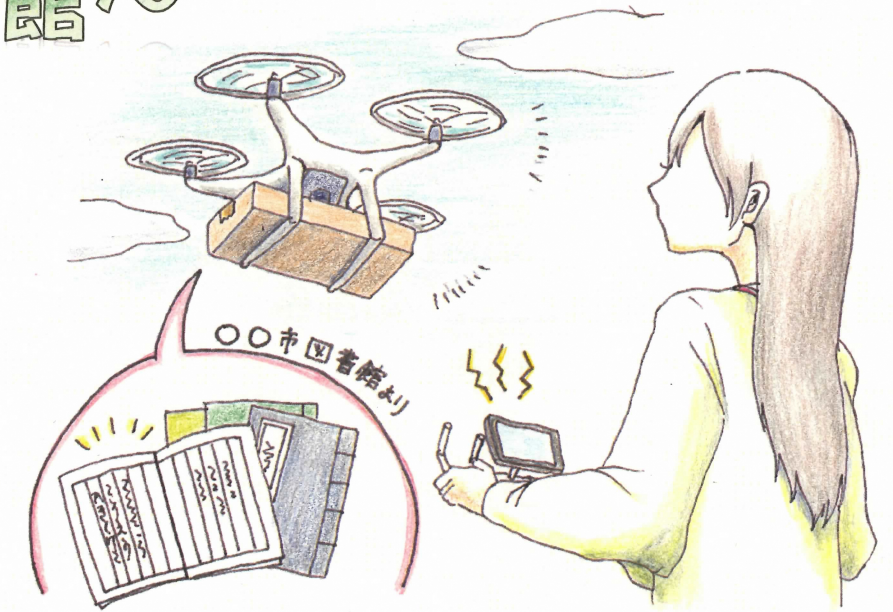
## ～多世代との交流を育む図書館～



近年の情報化社会の発達や新型コロナウイルスの影響などによって、多世代に渡り他者と直接ふれあい交流できる場や機会が徐々に失われている。今後、日本は Society 5.0 の社会へと移行し、現実空間と仮想空間が融合して、人とモノがつながり、より効率的で快適な社会づくりがされていく。私達の暮らしやワークスタイルは大きく変化していき、一方で、かつて他者との交流の中で自然と育まれてきた連帯感や協調性、思いやりなどの人間本来が持つ心の成長を促す機会が減少していくと考えられる。

そこで、県民が多世代との交流を図り、人間中心の社会を切り開いていけるような県立図書館を提案する。

単に本を閲覧し、貸し出しをする場所だけでなく、周辺環境と連続性を保ち、他者との交流が深められる閲覧空間がある。また、かつての旧東海道を思い浮かべられるような空間を演出し、静岡県の歴史に関わる文献が閲覧できるようにする。さらに、電子書籍では味わうことのできない活字の良さや、紙媒体の本の良さを体感できる空間をつくる。様々なアクティビティーを通して、新しい県立図書館を作り出していく。



# 深

新たな居場所として、周辺の谷津山を思い浮かばせるような自然をサンクンガーデンに配置し、そこで多世代との交流が深められる。さらに、世代を超えた交流の中で、本だけでは知ることができない知識を習得することができる。次なる世代へ語り継げる空間となっている。

# 庫

ウィズコロナ・アフターコロナ図書館として、各本棚には速乾性消毒液が噴霧できる自動装置を設け、更に光触媒装置により不活化する。これにより、多数の人が触れた書籍も自動的に除菌することが可能である。

